オーディオ実験室収載

fidata HFAD10-UBX の導入(12)
―ハイレゾ音源(1)―

１．はじめに

今回は、ハイレゾ音源再生の音質を評価します。

２．fidata HFAD10-UBX の試聴情報

接続は、前報(1)のとおりです。

HFAS1-S10←HFAD10-UBX（to Host B 端子：USB ハブとして機能）

HFAD10-UBX（to Device for Audio A 端子）→Brooklyn DAC+

試聴対象のハイレゾ音源は、ステレオサウンド社の 11.2MHzDSD 音源です。

ステレオサウンド社 SSHRB-002

アントニン・ドヴォルザーク 交響曲第 9 番ホ短調新世界より》

イシュトヴァン・ケルテス指揮ウィーンフィルハーモニー

ステレオサウンド社　SSHRB-004

ロイヤルバレエガラコンサート

チャイコフスキー他 くるみ割り人形(抜粋) 他

エルネスト・アンセルメ指揮コヴェントガーデン王立歌劇場管弦楽団

ステレオサウンド社 SSHRB-006

グスターヴ・ホルスト 組曲《惑星》

ズービン・メータ指揮 ロスアンゼルスフィルハーモニー管弦楽団

３．fidata HFAD10-UBX の試聴結果

今回のハイレゾ音源の再生では、HFAD10-UBX はドライブとして働くものではなく USB ハブとして機能するだけのことで、音源は HFAS1-S10 収納のものを読み出します。従来は、汎用 USB ハブを経由し、USB ケーブルも USB ハブ付属のものも経由していましたが、これも省かれます。

ドヴォルザークの交響曲第 9 番《新世界より》は、オリジナルが DECCA の 1961 年録音です。第 2 楽章 Largo の弦の弱音やコールアングレの微妙な味わいも表現されていますし、フォルテの総奏では切れ味よく迫力があります。Brooklyn DAC+での位相反転を行いますと、定位がよくなり、個々のパートの音が把握しやすくなります。

ロイヤルバレエガラコンサートは、オリジナルが DECCA の 1959 年録音で、チャイコフスキーのくるみ割り人形の花のワルツや白鳥の湖のシーンや、デブリのコッペリアの序曲とマズルカを聴いてみました。いずれも 1959 年録音とは思えない鮮度感でバレ

エ音楽らしい華やかな色彩感を表現しています。Brooklyn DAC+での位相反転を行いますと、定位がしっかりして音の鮮度感が鮮明になります。試みにコッペリアの序曲とマズルカの位相反転を元に戻しますと、捉えどころのない音になります。
ホルストの組曲《惑星》は、オリジナルが DECCA の 1971 年録音で、お馴染みの Jupiter を聴きましたが、切れ味よく広大なスケール感が展開されます。Brooklyn DAC+での位相反転を行いますと、定位が明瞭になり、音の分離が向上します。
いずれもこれまでの汎用 USB ハブを介する再生とはディテールの再現やダイナミックな表現で差をつけています。

４．まとめ

HFAS1-S10 と HFAD10-UBX の組み合わせによる 11.2MHzDSD 音源再生は、HFAD10-UBX は USB ハブ機能としてのみ働いているだけですが、音の緻密さが向上し、位相反転の効果も明確です。

以上